



—— トマトをつくるおじさんの話 ——

このあたりでトマトづくりが始められたのは、今から40年ほど前です。田んぼのほかに安定したお金をとるために、この土地に合っているトマトをつくり始めました。

以前は露地さいばい（外の畑で作物をつくる）でしたが、15年前からハウスさいばいされるようになりました。そのおかげで、露地さいばいよりも早く、そして2ヵ月ぐらい長くしゅうかくができるようになりました。今では、ほとんど一年中トマトが食べられます。しかし、毎年同じ畑でつくるため、トマトが病気になりやすくなります（連作しょうがい）。そこで、土づくりやつぎ木などのくふうをしています。

ハウスとはいっても、天気や病気のことなどの心配もあり、毎日のしゅうかくも手作業で大変ですが、たんせいこめて育てたトマトが、初めて赤くなったときのよろこびはかくべつです。